

令和3年度

第2回山武市森林づくり審議会



目次

- ◆ 森林整備部会からの報告
- ◆ 木材利用推進部会からの報告
- ◆ 今後の山武市の森づくりの進め方

森林整備部会からの報告



第1回森林整備部会での議論

【事務局説明】

前年に実施した森林審議会設立準備会での議論を整理し、「森林情報の整理」、「台風被害木の処理方法の検討」、「山武市森林の管理方針」について事務局より提案した。

【委員からの意見（要約）】

市内の森林の多くは管理されていない上、その森林の情報や管理方法も明確になっていない。他にも高齢化、人材教育、収益性など様々な問題を抱えている。

まずはできるところから森林整備を進めていくべきであるし、市でモデルややり方を示せると良いと思う。議論だけでなく、目に見える形で森林整備を進める取り組みが必要。

第1回森林整備部会の主な意見

- ・ 市民レベルでは情報を得る手段がないため、森林情報を整備してほしい
- ・ 整備に適した山林と適さない山林がある。整備しやすい場所はどこかを行政として捉える必要がある
- ・ 千葉県は小規模所有者が多く、モザイク状に点在しているため、利益が出るような集約化をしていけると良い
- ・ 自身の森林の管理方針についてもどのように決めてよいかわかりかねる
- ・ 高齢化し管理（特に搬出）が難しくなっている
- ・ 木材を集積する場所がないので、品質や数量の調整が難しく市場競争力がない
- ・ 予算、人員、境界不明等の理由で森林整備が進んでいない
- ・ 市民への生活や災害発生時に影響がある箇所は、触らなくて良い場所ではなく、段階的に天然林にするなどの対応が必要
- ・ 山武市の森林は価値がある木だが、若い人が山に関心がなくなっている
- ・ 目標になるモデル林があると森林整備しやすい

第2回森林整備部会での議論

【事務局説明】

第1回の意見を基に、山武市が目指す具体的な森づくりのゴールとして、SFGsを定め、SFGsを実現するために必要なことの整理とそのスケジュール案や役割分担を作成した。

【委員からの意見（要約）】

SFGsについては市民にもわかりやすくていいと思うし、スケジュールが作成されてイメージしやすくなった。これを目指して、実効性の高い取り組みから始められれば良い。

SFGsを掲げて森林管理の目標を定めるにあたって、市有林を用いた森林整備のモデルを作って森林所有者に示してはどうか。

第2回森林整備部会での主な意見

- ・ 山武市の公的な森林である日向の森の維持管理計画は今後の山武市の森林を考える上で重要であり、モデルとなる森林を作ること、文化継承や教育の面で活用すべきである。また、市民の意見を取り入れることも重要である
- ・ 森林経営計画管理制度と実際の森づくりでの意向調査は分けて考え、できるところから施業を進めていくべき
- ・ 人的にも機械的にも森林管理の能力向上が求められる
- ・ サンブスギの価値向上のため、生産方法や販路について熟考すべき
- ・ 森林整備の意義を市民周知する意味で施業現場の紹介看板を設置してはどうか
- ・ 森林の価値は木材生産だけではないので、ごみを捨てない等の啓発活動も必要
- ・ 市内で活動している団体の取り組みを市民や域外の方に紹介すべき

日向の森について

【概 要】

- 市が所有する約46haの土地で、企画政策課が所管する行政財産。その大部分は山林だが、平地部分は野球場やテニスコートのほか、一時的に資材置場等として利用している。
- 森林の一部はボランティア団体に、その維持管理に協力いただいている。

【これまでの市の考え】

- 日向の森の活用策として、地域の活性化・雇用の場の創出のための企業誘致の場として活用することで、全域で企業誘致を行いたい等の考えがあった。

【現在の市の考え】

- 実現性等を考慮し、**全域を「企業誘致の場」とするのではなく、「地域森林・自然環境保全の場」と両立した土地活用（ゾーニング）を行う方向性に至った。**
- 今後は、関係部局と調整しながら早い段階で具体的な区域分けを検討していく。

木材利用推進部会からの報告



第1回木材利用推進部会での議論

【事務局説明】

前年に実施した森林審議会設立準備会での議論を整理し、「サンプスギの用材としての利用可能性検討」、「風倒木の活用について」、「東金市に新設が予定される木質バイオマス発電の影響確認」について事務局より資料説明した。

【委員からの意見（要約）】

審議会の内容が薄く、議論が前進していないと感じている。現状は市民の森林に対する理解や関心が低いことに加え、生産者も発信できていないので、街づくりと一体的に考える必要がある。

サンプスギは評価されている部分もあるが、地域での供給体制が整っていない点が課題。

制度面での森林整備しやすい環境づくりも重要ではないか。

第1回木材利用推進部会での主な意見

- ・ 林業はお金を稼げることが必要であると思う。
- ・ 木の駅プロジェクトは10年目になり、敷料やパーティクルボード原料等の需要が少しずつできてきている
- ・ まちづくりと絡めていかないと広がっていかない。山武の森林と地域がどのようになっていくと良いか考えなければならない
- ・ サンブスギを使っている大工はたくさんいるが、情報発信できていないと感じる
- ・ 地域にはサンブスギのほかにサワラもあるので、その活用も必要
- ・ マンションの型枠に溝腐れ被害木を使いたいという話があったが、供給面で対応ができなかった
- ・ さんぶの森交流センターあららぎ館ではサンブスギを使用しているが、十分な説明ができない様子で残念だった
- ・ 東金市のバイオマス発電計画については需要先の確保にはなると思うが、供給体制は取れるのか
- ・ 森林経営計画を作りやすくする取り組みがあると森林整備につながる

第2回木材利用推進部会での議論

【事務局説明】

第1回の意見を基に、山武市が目指す具体的な森づくりのゴールとして、SFGsを定め、SFGsを実現するために必要なことの整理とそのスケジュール案や役割分担を作成した。

【委員からの意見（要約）】

SFGsについてはまとまっているが、数値目標を定めてはどうか。スケジュールは具体性が出ていいと思う。
サンブスギの活用に関しては供給者と需要者間での情報交換を行って、サプライチェーンを構築する必要がある。
まずは公共施設で段階的に使用してはどうか。
サンブスギかるたを通して市民への普及啓発にも力を入れていくべき。

第2回木材利用推進部会での主な意見

- ・山から出た材を利用するにあたり、山側は使う側がどんな材を欲しがっているかわかっていない。需要がわかれば山側も合わせた施業ができるため、利用側と山側の事業者間の交流ができれば良い。
- ・サンプスギを内装に使用したい意向のユーザーもあり、加工者や設計者も山のことを理解したい
- ・サンプスギ活用のサプライチェーンが十分にできていないので、仕様やスケジュールに関しては計画的に利用することが必要
- ・街づくりの視点でみて、森林の在り方はどうかを考えた方が良い。
- ・地域の建物の多くはLVLで建てられ、地域のプラスにもなっていない。小規模でもサンプスギを使い、森林の中でも山武経済の循環があることが必要だ。
- ・さんむフォレストで作成しているカルタを活用して普及啓発してはどうか
- ・山武市が目指すゴールについて、明確に示した方が良い

今後の山武市の森づくりの進め方



今後の山武市の森づくりの進め方について

(1) 山武市の森林に対するゴールを決める



(2) ゴールに対して現状の課題点を整理する



(3) 課題解決に向けて実行する内容を決める



(4) 実行する

(1) ゼロカーボンシティ宣言の期限である2050年を見据えて、
SFGs (Sammu Sustainable Forestry Goals) を掲げます。



(1) 2050年までに目指すSFGs (Sammu Sustainable Forestry Goals)



文化

250年以上の歴史を持つ伝統林業地である山武林業と全国に名高い貴重資源であるサンプスギを守り育てる



災害抑制

令和元年房総半島台風で受けた被害の再発を防ぐため、自然災害による被害を最小限にとどめられる強い森をつくる



木材資源

伝統的に行われてきた地域林業の特性を踏まえ、効率的かつ持続可能な木材生産で、付加価値の高い木材利用を促進する



教育

すべての市民が森林に親しみ、山武市の森林を誇りに思えるような森づくりや木材活用を市民全員で促進する



快適環境

豊かな森を育むことで、光合成によるCO2の固定や大気浄化の効果を最大化するとともに、市民が心身のリラックスできる森林の活用を促進する



水源

水源涵養機能の発揮とともにブルーフラッグに認証される豊かな海を守る森づくりを促進する

(2) 現在の山武市がSFGsに向けて足りないこと

目標1：文化…自伐林家による伝統的な山武林業が継承されていない

目標2：教育…市民が山武市の森林やサンプスギについて知らない
森林に触れる機会が少ない

目標3：災害防止…令和元年台風の被害処理が進んでいない
災害に強い森づくりが進んでいない

目標4：快適環境…市民の憩いの場としての森林が活用されていない

目標5：木材資源…林道や森林作業道の整備が不十分で作業ができない
木材価格が安く、事業収益性が低い
木材生産業者が少なく、生産力がない

目標6：水源…水源涵養機能の高い森づくりが行われていない

(3) SFGsに向けて取り組むこと（森林整備部会）

目標1：文化・・・・・・・・自伐林家の課題を抽出し、支援する

目標2：教育・・・・・・・・森林管理方針を定め市民の理解醸成をする

目標3：災害抑制・・・・・・・・令和元年台風の被害処理計画を作る
災害に強い森づくり方針を定める

目標4：快適環境・・・・・・・・市民の憩いの場としての日向の森の利活用を
検討する

目標5：木材資源・・・・・・・・森林の意向調査を行い、できるところから進める
必要な森林インフラを整備する
林業事業者の人材育成を行う

目標6：水源・・・・・・・・水源涵養機能の高い森づくり方針を定める

(3) SFGsに向けて取り組むこと（木材利用推進部会）

目標 1：文化・・・・・・・・山武林業・サンプスギの再ブランド化

目標 2：教育・・・・・・・・市職員の山武林業・サンプスギの理解を深める
市民向けの森林情報を発信する
市民参加イベントを開催する

目標 5：木材資源・・・・・・・・木育玩具や小物など市内産木材の推進
木造化木質化の推進
⇒木材や木製品の安定供給
薪・ペレットストーブの購入補助（既存）
市内産木材の新築・増築補助（既存）
⇒今後はリフォームを追加したい
店舗等の事業所への木質化

山武市の森づくりの進め方

	施策内容	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
森林整備関係	1 森林クラウドの活用による森林整備事業の推進及び事務の効率化 (市町村森林整備計画の樹立・変更作業)			変更	樹立	変更?			
	2 森林管理基本方針の策定								
	(1) 山武市内森林の現状把握 (2) 台風被害状況の把握と整備方針 (3) 山武市森林づくり審議会設立準備会の開催		地域林政Aによる実施						
	(4) 山武市森林づくり審議会 (5) 森林整備部会・木材利用部会の開催 (6) 今後の森林整備方針の作成		地域林政Aによる実施						
	(7) 森林管理基本方針の策定				策定				
	3 地域森林に関する情報の収集・発信相談窓口の設置								
	4 森林経営管理制度の運用 (1) 意向調査の計画立案・(2) 意向調査の実施及び林業事業者への施業地の斡旋						下記モデル事業の結果を踏まえて計画		
	5 山武市森林経営モデル事業の実施 (森林所有者の会の設立・林地集約化、森林管理路の開設)						森林整備しやすいところから優先的に実施		
	6 風倒木処理 ★災害に強い森づくり事業(一般財源)								
	7 森林整備 ★間伐の推進(国庫補助事業活用?) ★その他市単独の森林整備事業(ボランティア等)						森林経営管理制度と連動		
	8 浦安市との森林整備広域連携モデル事業による森林整備			協定締結準備		協定による森林整備の実施			
担い手	9 自伐林業推進モデル支援事業の実施								
	10 自伐林業技術支援及び勉強会			課題抽出	支援検討				
木材利用	11 木材流通システム助成事業の実施(材の搬出支援)								
	12 浦安市との森林整備広域連携モデル事業による木材活用			協定締結準備			協定による木材利用提供の実施		
	13 自治体間連携による販路拡大(市産材の利用促進)					需要調査	販路拡大	公共施設木質化	
普及	14 市民向け情報発信・市役所職員の理解醸成								
他	15 千葉県森林経営管理協議会の加入による森林整備の加速化の実現								

森林整備関係の令和4年度の実施内容

◆山武市森林整備計画の樹立

⇒制度に乗っ取って実施（将来的には下記基本方針とリンクさせる）

◆森林管理基本方針の策定

⇒森林整備計画との位置づけを明確にした上で、

SFGsの数値目標や具体的な目標林型、施業方法、ゾーニングについて整理
森林環境譲与税の今後の使途計画も明記

◆相談窓口の設置

⇒令和3年度中に設置し、令和4年度に本格稼働

◆山武市森林経営モデル事業の実施

⇒中津田・埴谷をモデルとした山武市に合った森林管理手法について検討・支援

◆災害に強い森づくり事業（継続）

◆浦安市との森林整備広域連携モデル事業

⇒間伐の施業地を確保し、カーボンオフセットも見据えた施業を実施

担い手の令和 4 年度の実施内容

◆山武市林業推進モデル支援事業の実施

⇒小規模林業事業体による森林整備モデルの検討

◆林業技術支援及び勉強会

⇒必要に応じて講習や勉強会を開催し、担い手の技術向上を目指す

木材利用の令和 4 年度の実施内容

◆浦安市との森林整備広域連携モデル事業

⇒木の折り紙、積み木等、木製品を制作

普及の令和 4 年度の実施内容

・市民向け情報発信

⇒相談窓口についてや今後の取組について広報等で普及

・市役所職員の理解醸成

⇒市役所職員を対象に山武林業や山武市内の森林の現状に関する研修実施



FOR A SUSTAINABLE SOCIETY